

報告事項イ

2 1 世紀型学力検討委員会の開催について

2 1 世紀型学力検討委員会の開催について、別紙のとおり報告します。

平成 2 9 年 7 月 6 日

鳥取県教育委員会教育長 山 本 仁 志

## 21世紀型学力検討委員会の開催について

平成29年7月6日

高等学校課

○文部科学省が、平成29年5月16日付けで「高大接続改革の進捗状況」を公表したことに伴い、本県としても現場に根差した意見を伺いながら、対応を進めていくことが必要であるため、本年度第1回目の「21世紀型学力検討委員会」を開催した。

※「21世紀型学力検討委員会」とは、高大接続改革への対応を検討するため、県内高等学校長7名と教育委員会事務局職員で構成された委員会で、平成28年度は2回開催した。

※高校・大学両者に関与する全国の幅広い情報を有しており、新テストに受託事業者として関わっている株式会社ベネッセコーポレーション職員2名にもオブザーバーとして参加いただき、助言を受けた。

1 日 時 平成29年6月7日（水）午前10時40分から正午まで

2 場 所 鳥取県庁第二庁舎9階第21会議室

3 出席者 県内高等学校長：計7名

県教育委員会：教育長、高等学校課長、高校教育主査 他 計9名

### 4 概 要

#### (1)「大学入学共通テスト（仮称）」について

○大学入試センター試験に代わるものであり、大学入学希望者を対象に、高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力を把握することを目的とするもの。

- ・マーク式問題（英語を除く）に加え、国語と数学で記述式問題を実施
- ・英語における民間資格・認定試験の活用

#### ア 英語の4技能評価における資格・検定試験の代替について

- ・例えば認定試験として英検を活用する場合、今年度の実施日の一部は県高校総体と重なるため、日程調整が必要。
- ・センター試験に向けた指導に speaking と writing の指導も加わると、英語の教員にとって負担が増えるが、英検が採点基準を変え、speaking と writing の比率が全体の3分の2を占める現状では対応せざるを得ない。
- ・段階別評価は大学入試に適さないのではないか。  
→（高等学校課）ほとんどの高校生は、6段階のうちの2段階くらいにしか入らないのではないか。大学側も困るのではないか。
- ・経済的なバックアップを要望したい。

#### イ 「大学入学共通テスト（仮称）」記述式問題のモデル問題例について

- ・数学のレベルはセンター試験よりも高めである。しかし、問題全体の中の割合から考えると大きな差は出ない。2次試験を意識した指導をしている学校は対応可能。
- ・国語は方向性としては良いが、かなり高度な力が求められる。抜本的に授業のかたちを変えていかなければならない。
- ・本県が進めてきている知識構成型ジグソー法等のアクティブ・ラーニングの取組は、まさに記述式問題で求められる力をつける方向に向かっている。しかし、授業の準備等には膨大な労力が必要であるため、指導案等の共有化を図るべきである。

#### ウ 記述式問題の採点基準について

- ・全員が同じ試験を受け、採点基準も統一されるのであれば、記述式問題についてはあまり問題を感じない。しかし、英語は異なる試験を受けることになる。現時点の漠然とした情報だけで、学校の方針等も含め、どうやって今の中学3年生に説明するのか。そちらの方が大変な問題である。
- ・採点基準よりも正確な自己採点ができるかどうかの問題ではないか。

#### (2) 「高校生のための学びの基礎診断（仮称）」について

○「基礎学力の確実な習得」「高校生の学習意欲の喚起」を図るため、高校における学習成果を測定するツールの1つとして活用できるよう、国が一定の要件を示し、それに則して民間の試験等を認定する仕組みを創設。

- ・進学や就職試験に活用されることは反対である。
- ・生徒が受検料を負担するのであれば、生徒のためにならなければならない。学校のためならば、生徒が負担するのは筋が通らない。
- ・コンセプト自体は悪くないが、話が中途半端なところで終わっている印象はある。
- ・どのような結果が公表されるのかがまったくわからない。序列化につながるようなことは避けてもらいたい。
- ・定時制課程や通信制課程等、さまざまな生徒がいることを踏まえた制度設計を要望したい。

#### (3) その他

- ・高校入試及び教員採用試験の在り方についても検討していくべきではないか。

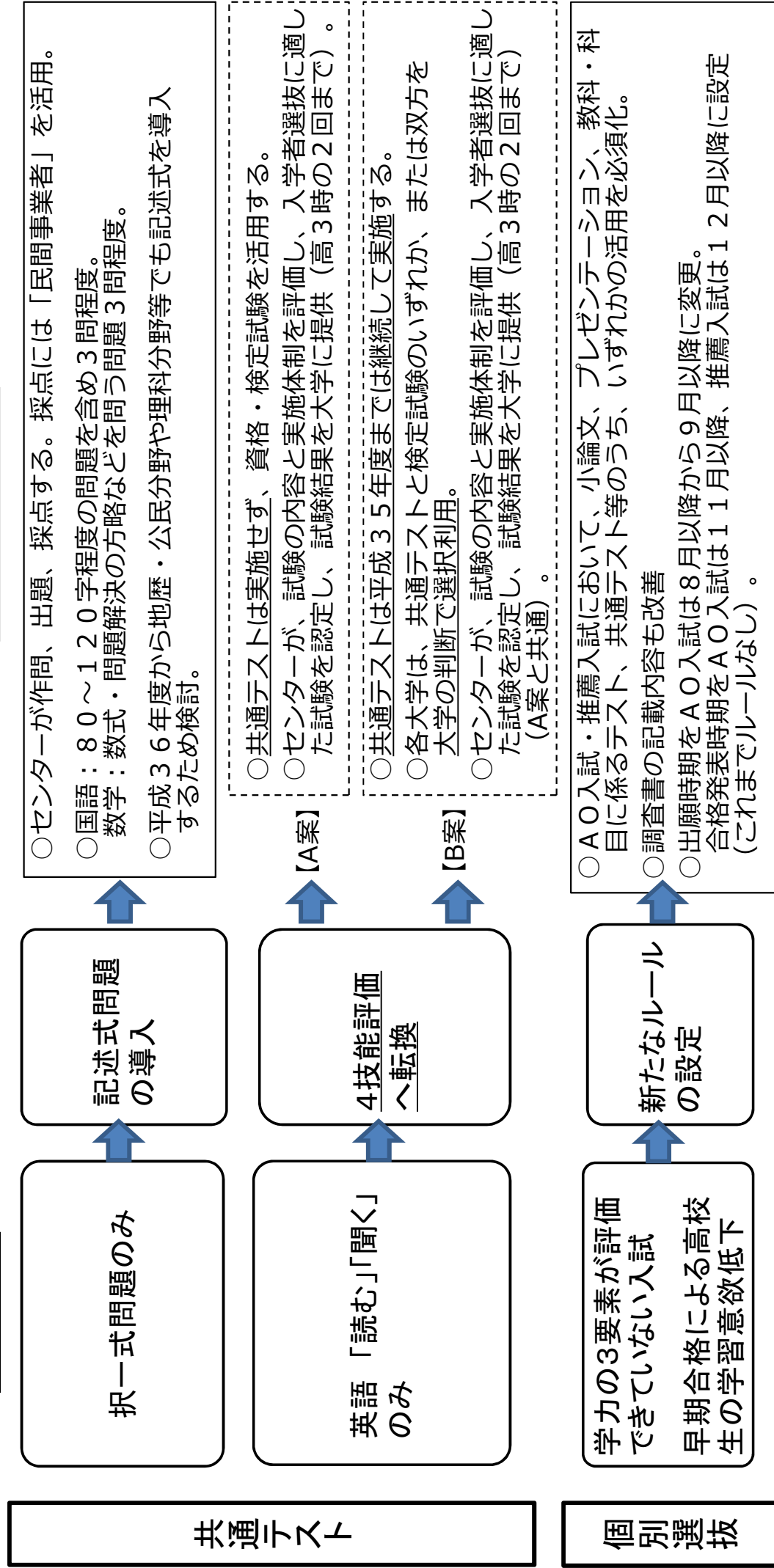
#### (4) ワーキンググループについて

(個別課題に対応するため、新たに2つのワーキンググループを設置していく方向を了承)

- ・教育課程研究ワーキンググループ（仮称）：「大学入学共通テスト（仮称）」への対応と「学力の3要素（十分な知識・技能、思考力・判断力・表現力等の能力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）」の育成。
- ・基礎力強化ワーキンググループ（仮称）：「高校生のための学びの基礎診断（仮称）」への対応と高校教育の質の保証。

- ◆ 受検生の「学力の3要素」について、多面的・総合的に評価する入試に転換
  - ① 知識・技能 ② 思考力・判断力・表現力 ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
- ◆ 高大接続改革実行プラン、高大接続システム改革会議最終報告に沿って、大学入学者選抜の改革を着実に推進
- ◆ 平成32年度「大学入学共通テスト(仮称)」開始 ※記述式、英語4技能  
平成36年度 新学習指導要領を前提に更に改革

### ＜現 行＞



## 資料 2

### 「21世紀型学力検討委員会」出席者名簿

所属・職名	氏名
鳥取東高等学校長	尾室 真郷
鳥取湖陵高等学校長	濱崎 公嗣
倉吉東高等学校長	河田 雅志
鳥取中央育英高等学校長	御舩 斎紀
米子東高等学校長	山根 孝正
日野高等学校長	永野 智之
鳥取敬愛高等学校長	二階堂 茂夫
県教育委員会教育長	山本 仁志
県教育委員会事務局高等学校課長	徳田 章人
県教育委員会事務局高等学校課 高校教育主査兼高校教育企画室長	國岡 進
県教育委員会事務局高等学校課 課長補佐	津村 英樹
県教育委員会事務局高等学校課 高校教育企画室係長	石崎 学
県教育委員会事務局高等学校課 指導担当係長	岩本 孝治
県教育委員会事務局高等学校課 英語教育推進室指導主事	福島 卓也
県教育委員会事務局高等学校課 高校教育企画室指導主事	岡森 智之
県教育委員会事務局高等学校課 高校教育企画室指導主事	甲斐 清